

第 10 回 番組審議会議事録概要

1. ◆開催日時

平成 30 年 10 月 22 日 (月) 午前 12 時より

2. 開催場所

東京都港区台場 2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 藤原庸介、竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎、砂川浩慶 (新任)、
宮崎美紀子 (新任)

株式会社サテライト・サービス

加藤浩輔、岡崎洋三、峰岸淳、窪田正利、五百城重典、福本洋、松永正隆

株式会社フジテレビジョン

永竹里早、鹿内植、田淵麻子

株式会社ジュピターテレコム

高木明夫、森井健策

ディスカバリー・ジャパン株式会社

杉本 将、高山真詩

株式会社スペースシャワーネットワーク

藤島克之

株式会社 CJ E&M JAPAN

渡邊玲未

4. 議題

- 1) 「デンバー動物クリニック」“S4 カルテ 13”
アニマルプラネットで放送
- 2) 連続ドラマ「記憶」全 12 話
フジテレビ NEXT で放送
- 3) 報告事項 「東経 110 度衛星基幹放送の制度について」

代表取締役社長 加藤浩輔 から

- ・ 110 度衛星放送は変化の年。110 度 CS の 12 スロット HD 化に伴う帯域再編が行われ
5 月に認定された新帯域での放送が 10 月から始まり、年末には BS と CS 左旋での 4K

放送が始まります。

- ・今回から新しく 砂川浩慶氏、宮崎美紀子氏の2名に番組審議委員会に加わっていただきます。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

「デンバー動物クリニック」アニマルプラネット

- ・シリーズで見ると違った印象があるだろうが、一話だけでは、何を目的とした番組かわからない。大きな病院でやっていることを紹介したいのか、色んなペットの症例を見せたいのか？ 猫は猫で、犬は犬でまとめた方がよいのではないか。犬が好きなので犬編で集めてくれれば僕は一生懸命観ます。
- ・興味のない方にはこの番組は気持ち悪いだらうと思うが、病気を持つ動物の飼い主さん、人間がテーマでは？ アメリカが凄いのは、飼い主の資格をはく奪する法令がある。虐待をしたときに法律で裁くという制度が日本にはないのが残念。
- ・専門性の高いチャンネルは好きな人しか見ないので、それがやっぱりCSの良さ。デンバーは、アメリカ人の原風景で開拓心が残っている場所。昔ながらのアメリカ人が愛した場所で、動物に対するかかわり方もアメリカ人の原点だと思った。原点だけど大変な事もある。そこまで説明すれば日本人でも理解できるが、その説明が欠落している。補ってあげていけば理解も進む。途中から医師が変わるのが混乱する。
- ・ペットが入院してる時に家で待っている家族の様子も描かれていて、なかなか日本にない番組。人間と動物の関り方に日本人とアメリカ人の違いを感じた。
- ・日本の場合はお笑い系の方が番組に出るし、カメラ自体が映り込むが、この番組は変な映り込みがない。日本人と動物の関りを鋭く突き詰めていくのは日本の番組の課題。
- ・リアルとエンターテインメントの境界線がどこまでなのかな、と気になった。冒頭の英語表記テロップでは、最初の2つが訳されていなかった。制作者はリアルな世界だといい、メッセージ性が込められていると思ったが、日本の視聴者に対して訳されていないのは、疑問に思った。
- ・日本には大規模な設備をもった動物病院があまりなく、接する動物の種類が大分違う。日本で動物病院を舞台にしたらどうなるのかと考えながら観た。4歳の子供が好きな動物番組とは違う。大人が観る番組だと思った。完成されてはいるが、テロップなり関連図で補って欲しかった。初めて見る人への配慮、工夫があってもよいのではないか。
- ・ドラマなのかなと思うくらい、医師のキャラクターが立っていた。本物感を感じた
- ・犬の手術後に診察にこないと権利をはく奪とか、ライオンを保護する豪快さとか、なかなか日本で見られないので、面白かった。吹き替えにさせていただくともっと見やすかった。
- ・動物を描くこともさながら、人間社会を描くシーンもさり気なく入っていて面白かった。日本の動物番組もドキュメンタリー物はあることはあるが、全然作りが違うなど。この番組は序・破・急。スピード感のある編集。日本は起承転結。プロセスの説明がある。何を

見るのかの取捨選択の結果としてこうなったのではないか。

委員からの意見に対し制作サイドから

- ・動物病院の中で実際に起きたことを描いている、ヒューマンドラマ。視聴者に考えさせるのが目的で作られた番組。色んな飼い主がいて、ペットの関係があって考えさせられる。ある意味、人間社会を描いている。
- ・映像にテロップや字幕を付けるのは技術的にできないので、番組ガイドや Web などでするようにしている。病院の院長ジェフは高い意識を持っている。
- ・治療を見せるシーンもあるが、この番組を通じてペット社会、人間と動物の関わりを考える番組になっている。

連続ドラマ「記憶」全 12 話 フジテレビ NEXT

- ・設定が若年性アルツハイマーとうことで憂鬱な気持ちになったが、ほかにも冤罪事件など様々な問題が起きて病气一辺倒で進まないところが見やすくハラハラした。皆が要所所で勘が鋭く話がよく進み、かえって笑うところがあったが、完成度が高いドラマだった。フジテレビの CS ドラマは実験的なイメージがあったがこれは安定感があった。このクオリティのものを毎年出せるのか、勝負に出たのかなと気になった。
- ・全部見た。義務的ではなく一気見した、すごくよかった。
- ・韓国のドラマが元になっているので日本版に置き換えると色々としんどそうだが素直に楽しめた。これは地上波ではできない有料放送で扱うテーマなのかな、と思った。ドキュメンタリーでは若年性アルツハイマーを扱う番組はある。多くの人に見てもらいたいドラマだった。
- ・描かれてるのは普遍的な家族の愛とか。弁護士という設定にしたのがよかったと思う。韓国と日本の弁護士状況は似ていて、違和感なく見れた。弁護士は、なんでも人に任せないで自分でやるところがある。我々弁護士からすると共感できる。病気で周囲を巻き込んでいくテーマとの関係で主人公を弁護士にしたのはよかったと思う。
- ・5話だけ見て、そのあと1話から全部見たが、重かった。面白いけど辛い。
- ・身につまされる思いだった。共鳴できる部分があった。
- ・韓流にはパターンがあって、おどろおどろしいというか。そういう部分がきちんと描かれていた。ただ、最終話は長すぎる。また、4歳児の鍵っ子は設定に無理があった。
- ・韓流はご都合主義が多いので、批判的に見始めたが、演出が優れており、そういうことを忘れさせるようなパワーがあった。本筋とは関係ない人間の機微というのがあちこちに散りばめられている。ジェットコースターのような急な展開ではなく余白を作っている。余白づくりに踏み切ったプロデューサーや演出家は、この番組を深く理解していたと思った。
- ・非常に面白かった。自分も人間関係の中で色々なシーンを思い出した。キャスティングが

すべてよかった。最後まで真剣に見てしまった。

- ・韓国ドラマを翻案するのは難しそう。翻訳ではなく翻案。韓国版も見たい。
- ・なぜこれを TWO ではなく NEXT でやったのか？フジテレビの CS 放送 3 チャンネルの役割分担からすると、これが NEXT なの？と疑問に思った。
- ・4K で撮影しているので全体として非常に絵がきれい。
- ・メディアは良い者と悪い者をはっきりと作りすぎている。アルツハイマーは付け足しではないか。勸善懲悪の物語にアルツハイマーというペンキを塗ったのではないか。
- ・5話と最終話を見た。非常に様々な要素が入ったドラマ。ミステリーも法廷も、仕事も家庭も。現代の混沌とした複雑さがあった。
- ・今の善とは正義とは、生きるとはどういうことかを問いかけているのが分かった。アルツハイマーがなければ成り立たなかったと思う。なぜなら正義は成り立ちづらい。フィジカルな条件を付け加えなければ正義が表現できない。

委員からの意見に対し制作サイドから

- ・この作品（オリジナル）は韓国の 3 大悲劇のドラマを作った人が久々にタッグを組んだ作品。大人が見れるドラマを作りたい思いがあった。
- ・オリジナルでもつじつまが合っていない無理やり感があったが、オリジナルを大事にしないとリメイクは作れない。日本人がひかれている韓国ドラマのスピード感や強引さを変えたら面白さがなくなってしまうので、目をつぶって作った。事象は大げさになっている代わりに人間の機微や余白は演出的にも大事にした。
- ・中井さんが出演してくれたことにより、良いキャスティングができた。
- ・できるだけカメラを動かさない事を意識した。この作品を通じて、人間は優しい、独りじゃないよというのが一番伝えたかった部分。
- ・地上波でも放送されることになりました。
- ・最終話で法廷のシーンを詳細に描きすぎたのは反省。

報告事項

「東経 110 度衛星基幹放送の制度について」

- ・サテライト・サービスが放送事業を行っている東経 110 度衛星基幹放送について、総務省が認定する放送事業者と番組供給事業者の関係などを説明した。

次回予定 平成 31 年 1 月 28 日（月）12 時から

議題はフジテレビ TWO とディスカバリー・チャンネルの番組の予定。